

Life is so precious!

仕事も人生も もっと楽しく! 美しく! — 3

撮影/塩崎 聡 取材/木佐貴久代

感性を数値化し、芸術を科学する。日本における「感性情報学」の第一人者

関西学院大学理工学部人間システム工学教授、工学博士

長田典子さん

52歳。京都大学理工学部卒業後、電機メーカーに就職。応用機器研究所、産業システム研究所にて検査装置などの研究に従事。35歳のとき、大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程修了。'03年より関西学院大学理工学部情報科学科助教授、'07年教授に。中学生の娘がふたりいる。

今、私たちが何をしているか、わかりますか? 光学マーカーを指や腕などに付けた学生に、ピアノを弾いてもらって、それを13個のカメラで3次元撮影しているんです。これは、「ピアノの演奏を科学する」という私の研究テーマのひとつ。繊細で難しいとされていたピアノ演奏のCG化も、これで可能になりました。『のだめカンタービレ』のアニメ制作にも生かされたんですよ。こんなふうには、音楽やアート、色、快適さなどを、目に見えるように数値化して、その価値を明らかにする「感性情報学」が、私の専門なんです。

感性の研究は、日本発祥の新しい分野で、「KANSEI」が世界共通語

になっていきます。私がこの学問に関わるきっかけになったのは、大学卒業後に就職した電機メーカーで、検査装置をつくる仕事をしていたとき。真珠の鑑定を機械化できないかという依頼があったのです。鑑定士の方って、一般の人が見てもわからないような、色や輝きの微妙な違いをひと目で見分けるのですが、そのことについて、「最後は感性です」と言われて。その、感覚とか感性と呼ばれるものに科学的な根拠を見出し、数値化できないか、と考えたんです。そんなとき、ある講演で、「感性情報学」というものがあることを

知り、「これだ!」と。会社からは、「真珠の鑑定の仕事はもうからない」と反対されたんですが(笑)、自主的に研究を続けました。大学院で1年間学び、会社員13年目、35歳のときに博士号をとって、39歳のときに、応募して今の大学に採用され、その3年後に、助教として着任しました。

人が「楽しい」とか「心地いい」と感じる、その感じ方を大切にしたい。ただの空気の振動である歌や音楽が、人を感動させる、そういう、数値化されていない価値を明らかにして、快適な環境づくりに役立てていけたら。そういう思いながら、研究を続けています。

世界各国キャリアへ、5つの質問

Q1 仕事の成功のためにしている習慣は?

よく笑う。とにかく楽しむ。

Q2 バッグに必ず入っているもの3つは?

PC、ネットにつなげるためのモバイル環境一式、新聞記事の切り抜き。

Q3 あなたの街のストレス解消スポットは?

美術館。兵庫県立美術館など、県下の美術館をよく巡ります。

Q4 理想の週末の過ごし方は?

夫とウォーキング。娘とも一緒に歩きたいけれど、部活が忙しくて…。

Q5 人に言われてうれしいほめ言葉は?

「おもしろい研究ですね」「楽しい研究室ですね」



HYOGO